

QURUWA FUTURE VISION REPORT #01

自分の暮らしをよくするのは、他人か、自分か。
まちの新たな回遊動線として人道橋 - 中央緑道 -
籠田公園をつなぐ「セントラルアベニュー（仮）」
の暮らしと未来をまちの担い手とともに考える、
QURUWA FUTURE VISION。

まちの担い手がつながり、自分たちでつくりたい
「ほしい未来」のカタチをこの場で構想します。
このレポートでは、当日の様子をまとめています。
自分がつくりたい未来を考えながらご覧ください。



DAY1 : 2016/10/10

第1回目となる10/10は、冒頭、岡崎市担当課の課長の挨拶を行い、担当者から、乙川周辺エリアの整備計画や主要回遊動線「QURUWA」の目的をお話いただきました。その後、設計デザインに携わるCAデザインチームのオンサイト計画設計事務所 長谷川浩己氏、東京大学教授 羽藤英二氏、(株)アフタヌーンソサエティ 清水義次氏、(株)まめくらし 青木純氏の紹介を行い、4名の講師によるトークセッション、グループに分かれて行うワークへと進みます。

TALK SESSION 公共の使いこなし方を知る

自分の暮らしをよくするのは、他人か自分か。

(株)アフタヌーンソサエティ
清水 義次氏



岡崎のまち全体を考えたときに、行政は新しい役割を積極的に果たす必要がある。民間は従来のような行政に言いたいことだけを言って、後は税金頼みのスタンスではいいまちは絶対にできない。主体性を持って、公共空間を豊かにする事業をつくり出し、従来行政だけの負担だった維持管理費の一部を民間が負担してしまうんだという気概を持った事業者市民のチームがいくつも誕生してくれることを期待しています。

公共空間をみんなで使うコツ

(株)サルトコラボレイティブ
加藤 寛之氏



大阪市内の同和対策エリア芦原橋では、地域の関係者みんなが集まった協議会をつくっても、意見がまとまらないため、意思決定機関の下に一般社団法人リイドという実行部隊をつくりました。そこが市から土地をタダで借り、駐車場運営と月1回のマーケットを開催します。そうして、まちの空気感を変えています。今はつくったものを使いこなす時代。岡崎のまちをどう使いこなしたいかを、考えてみてください。

公園は市民のステージ

(株)まめくらし
青木 純氏



もともと公共は官のみでつくるものではなく、市民が連携してつくるもの。補助金に頼らず民間が自立してビジネスを行いながら自分たちのまちをつくり、守ることが起こりはじめていくと新たな動きも起こります。公共は規律より自立。そして、自分たちの理想の日常をつくり、発信していくことで、次にもつながる。他人と過去は変えられないけど、自分と未来は変えられる。だから、やるしかないんです。

セントラルアベニューの可能性

オンサイト計画設計事務所
長谷川 浩己氏



通過交通と地域内の交通を分けることで、大きな動きのラインを決め、その内側に歩いて回れる境界をつくります。QURUWAがいくつかの境界の中をつなぎ、全体として歩きやすい境界が生まれる。その一部としてセントラルアベニューがあります。そして境界に人が集まり参加することで招く人と招かれる人が入替り、動きのあるオープンスペースになって、まちに人の姿が見える風景ができてきます。

PLANNING 公共空間を使いながら、自分の「したい」を描く

トークが終わった後は岡崎市民のステージとなる籠田公園へ。(株)スノーピーク BS 提供のテントでグループワークです。「したいこと」「どこで」「だれが」「どうやって」「だれのために」という項目が書かれたカードに、自分の想いを記入していきます。それぞれに記入した後は、全員の前で発表。「地域の薪や食材を使って、親子BBQやキャンプをしたい」「高校生の自分たちがくつろげる場を、お金を集めてつくりたいので、高校生も話合いに参加していきたい」「子連れやお年寄りなどがまちを歩くときに、休憩できるスペースのネットワーク化を仲間に出会っていきながら実現したい」など、さまざまな視点の意見が。この声を設計に盛り込み、次回はより具体的な使い方を考えます。



QURUWA FUTURE VISION REPORT #02

自分の暮らしをよくするのは、他人か、自分か。
まちの新たな回遊動線として人道橋 - 中央緑道 -
籠田公園をつなぐ「セントラルアベニュー（仮）」
の暮らしと未来をまちの担い手とともに考える、
QURUWA FUTURE VISION。

まちの担い手がつながり、自分たちでつくりたい
「ほしい未来」のカタチをこの場で構想します。
このレポートでは、当日の様子をまとめています。
自分がつくりたい未来を考えながらご覧ください。



DAY2 : 2016/11/6

第2回目となる11/6は1回目同様、岡崎市担当課の課長の挨拶からはじまります。そして、(株)アフタヌーンソサエティの清水義次氏から公共に向き合うマインドの話があり、セントラルアベニュー（仮）の検討方針をオンサイト計画設計事務所の長谷川浩己氏から提案。その提案が終わると、4つのグループに分かれ、それぞれの場所の具体的な使い方を考えます。

PROPOSAL セントラルアベニュー（仮）計画設計提案



コンセプト整理

セントラルアベニュー（仮）を、公園、段丘、国道一号線周辺、橋の4ブロックに分けて説明。例えば、公園ブロックの中には屋根や机を常設して公園に集う人がゆっくりとおしゃべりしたり、地元の高校生たちが自習をしたりするスペースを。また、シンボルとなる芝生広場をコモンスペースと位置づけ、大きすぎて使いづらい舞台を取り除き、地面に起伏をつくることで、遊具の代わりに遊び場やイベントの際の観客席にもなるつくりをしています。現在の舞台の代わりに、一休みする空間にもなるパーゴラを使用規模に合わせて、木陰の間につくるという案も。日常を楽しめる空間をベースに、イベント時も楽しめる空間デザインとなっています。

デザインの全体構造

ソフトを起点としたハードデザインの全体構成を説明。ブロックごとに話した内容を「あそぶ」「たべる／はなす／よむ」「イベントなど」のアクティビティごとに分けて、どのように分布されているのかを俯瞰して伝えます。そして、アクティビティごとの人の動き、バランスを見て「のこすもの／とるもの」の考え方の整理へ。

引き続き、今までの想いや思い出などを十分尊重しながら、これから先の風景を考え、さまざまな意見を検討し、ベストと思われる選択を設計に落とし込んでいきます。

計画設計案について、詳しくは下記サイトの関連資料をご覧ください。
<http://www.city.okazaki.aichi.jp/300/306/p020543.html>

GROUP WORK グループワークで具体的な「使い方」を考える

提案の後はグループワークを行い、それぞれの意見を発表します。出た意見は「毎日通学のときに、公園の横の道を自転車で取り抜けることが気持ちよくて大好きです。だから、車と歩く人と自転車の道を分け、みんなが気持ちよく過ごせたら嬉しいです」と自分だけでなく他の市民も含めて気持ちよく日常を過ごせるもの。また、セントラルアベニュー（仮）でもっと時間を使うことになるならトイレは2つ付けて、明るく、綺麗なものがあるといいという声も。他にも、「公園のステージは存在感があるが、その分、使われていないときはすごく寂しく感じるので、コンパクトにするのはいいと思う」「お年寄りや障害のある人、子ども連れも歩きやすいようにバリアフリーだったらいいですね」「公園前のスペースは、ポップアップショップができる場所になるといい」「電気や水道などのインフラも整っているともっと使いやすそう」「長い通りを活かして日本一長いバージンロードをつくり、公園でアウトドアウェディングができればいいな」という意見など、実際に図面や模型を目の前にすることで自分がしたいことのイメージがより湧いてきたようです。こうして、第1回のときよりも、具体的な使い方を皆さんからお聞きした第2回。今回出た、「こんなことがしたい」という想いや「こんなものが欲しい」と言う先に期待していることを設計デザインに落とし込んで、次回は基本設計を提案します。